

かけはし

2016
Vol.73
July

親子国際理解セミナー ～バナナから学ぶ、世界のようす～

普通では手に入らない緑色のバナナの収穫体験、バナナの天ぷら、バナナの春巻き…
こんな言葉に興味をそそられませんか？ そんなあなたは、本文4ページへGO！



イタリア野菜を咲かせよう

クッキング班ボランティアによるイタリア野菜畑

イタリアとは2005年の愛・地球博がきっかけで毎年何かとイベントが計画されてきましたが、1月には『イタリア野菜を咲かせよう』というイベントで2日間にわたって[一宮とイタリア野菜のマリアージュ]、[イタリア野菜を身近に感じる料理教室]が行われ、1日目は千葉県でイタリア野菜を栽培されている方より、品種や栽培技術、食べ方などについてお話を聞き、お昼にはプロの方のイタリア野菜を使った料理をいただきました。そして翌日には一宮市在住のイタリア人、アレサンドロさんの指導による料理教室が行われました。そのとき、イタリア野菜のタネが配られたことをきっかけに、国際交流協会ボランティアグループ・クッキング班の皆さんがイタリア野菜作りに挑戦されることになりました。

前置きが長くなりましたが、3月10日に第1回のミーティング、そのあと畑に行って種まきをしました。



左の写真は配布された種ですが、種類が多くて描き切れません。

場所は市内にあるグループリーダーの小川さんの畑の一部を借りることになり、小型ながらも耕運機も出動してさっそく土作りです。作業はいつも野菜作りをしていて手なれた方々が中心になり手ぎわよく終



えることができました。

その後、早く芽を出せ、芽が出れば早くお

きくなれ、花を咲かせて実がなれと思う気持ちは誰にでもあります。そこは勝手にわからないイタリア野菜、なかなか芽が出ません。成長もバラバラでなかなか成長しないもの、けっこう育ちの良いものなど収穫までには苦労させられそうです。中には野菜作りはベテランという人もみえますが、作りなれない野菜では勝手に違うようです。



6月に入って収穫できるものが出てきました。フェンネルやズッキーニ、ルッコラなどです。

作業は2班に分かれ交互に畑に出かけていますが、なれない野菜のため、こまめに管理してやらなければいけないのは日本の野菜以上です。また、収穫期になればタイミングよく収穫するにはもっと大変になります。とれたものは色々なイベントにも使う予定をしています。料理教室やマルシェへの出品など・・・うまくイベント時にたくさん収穫できるといいですね。

下の写真は6月24日の作業時に当日当番の班の皆さんによるズッキーニの収穫です。でも実は緑色のヘチマのような立派なものは育ち過ぎて食べられないとの事でした。(雲谷齋)



親子国際理解セミナー

世界のくらし探検隊 ~ニュージーランドの家族とおやつ~ 今伊勢公民館 2.27

国際交流員のロザンナさんによる、お菓子「ホーキー・ポーキー」作り体験とニュージーランドの家族についてのセミナーが行われました。

参加者は小学生の子どもと保護者で、9組21人。そのほかに、クッキング班ボランティア7人が手伝いました。

「ホーキー・ポーキー」はニュージーランドではポピュラーなお菓子。ゴールデン・シロップ（サトウキビで作ったもの）と砂糖と重曹でつくります。日本の「カルメラ焼き」に似ています。



参加した小島真希さんのグループでは、小学生の子どもでも難しくなく、作っていて楽しかったと

いう感想でした。

次に家族や生活の話です。ニュージーランドは子ども2~3人が普通。両親が共働きの家庭が多いので、家事はみんながやるそうです。とくに男性が育児、家事をやることも多く、国鳥にちなんで日本ではキウイ・ハズバンドともいわれています。女性の育児休暇は1年間。赤ちゃんを産んでも1年たてば元の職場に同じ待遇で戻れます。祝日は店が休みなので家族で過ごすことが多いそうです。日本のことでは学校給食が素晴らしいという感想でした。

いま国旗を変更することで話が進んでいるが、一部に反対もあるそうです。（その後国民投票の結果、変更しないことに決まったそうです）。

ロザンナさんの話はユーモラスで、話すこともよく考えてあり、子どもにも分かりやすい話し方でした。

お菓子作りを通して外国を知るという目的は十分果たせたセミナーでした。（橋本）

イタリア国際交流員 退任のお知らせ 新天地でもがんばれ、マッシモ！

一宮のみなさん、こんにちは。ダラ プリア・マッシモです。

国際交流員として働いたことは、貴重な経験でした。国際交流のすばらしさは、自分の視野を広げると同時に、相手の視野を広げてもらうことに貢献できることだと感じました。

この貴重な仕事を断念することについては、本当に悩み、結論を出すことが難しかったです。が、人生の大きな岐路に立った私は、次の一歩を踏み出すため、一宮を離れることにしました。

一人でアメリカのロサンゼルスに渡り、知り合いもいなくて最初の二ヶ月はものすごく大変でした。でも今はシリコンバレーで新しい仕事をしながら、少しずつ違う生活に慣れてきています。でもやっぱり、まだ日本の方が私に合うかなと思ひ込んでいます。友だちにもいつも言われています、「マッシモ、あなた半分日本人だね。なぜアメリカへ行ったの？」と。

一宮の市民のみなさん、とくにボランティアの方々とは仲良くなって、一緒にイタリアの文化紹介を中心としたさまざまなイベントに参加したりしたことは、心に響く、忘れられない体験になりました。

学校訪問でイタリアの習慣とおもしろい話を

子どもたちにしたら、大好評で、少しでも自分の国を理解してもらえたこともうれしかったですし、子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごしたことも、心に刻まれたすばらしい経験だと思います。その中でも、特別

支援学校への訪問は、一生忘れられない、とてもいい経験でした。この学校で働く人たちの熱心さを尊敬しています。また、この学校の生徒たちの明るさと大歓迎にも驚きました。

去年の8月からの8ヶ月、短い期間でしたが日本に来た価値は間違いなくあったと、いつも思っています。一宮のみなさんに深く感謝しています。いつかまた必ず訪問しますから、その時はよろしくお願ひします。料理のできない怪しいイタリア人と仲良くなっていただき、ありがとうございました！（笑）



ダラ プリア・マッシモ
イタリア・パドヴァ出身
任期：2015.8月~2016.3月

親子国際理解セミナー

バナナから学ぶ、世界のようす

稲沢バナナ園 5.28



スーパーマーケットで入り口付近に山積みになっている黄色いバナナ。皮をむくだけで食べられ、手軽なおやつや朝食として、また小さなころから離乳食としても口にしています。

こんなに身近なフルーツも、ほかの国では果実以外に花も食べられていることや、葉も生活に利用されていることなど、あまり知られていないことがたくさんあります。今回は14組の親子がバナナ園を訪ね、南国フルーツがどのような育ち方をしているか観察したり、農園主から説明を聞いて、東南アジアやアフリカの食文化や生活習慣について学びました。

バナナの花 見つけ競争

ヒントはタケノコに似た形と言われたけど、実物を見つけてびっくり！



バナナは木じゃなくて草

葉っぱは血替わりや包んで蒸す調理器具として用いられたり、屋根をふく材料としても使用されています。

一房に150本から300本

房ごと収穫したら、幹を切ってしまいます。そう



すると、横から新しい芽が出て1年後にはまた収穫できるそうです。



フィリピンの伝統料理

一宮フィリピンコミュニティのみなさんに作っていただいたバナナの春巻きと天ぷら。鶏と青パパイヤの煮込みスープも好評でした。



バナナの追熟

おみやげにももらった青バナナ。青いうちに青バナナチップスにするか、スイートスポットが出るまで観察してから食べるか、迷います。



この日、踊りを披露してくれたフィリピンのこどもたちは、自分の家の庭にバナナやマンゴーがなっているのは普通のことだと話してくれました。けれど参加した親子は、自分たちがバナナの房を切り落とした切り口から、汁がポタポタ落ちるのに感動したり、青バナナの硬さや重さに驚いたり、発見がいっぱいでした。

(伏原)

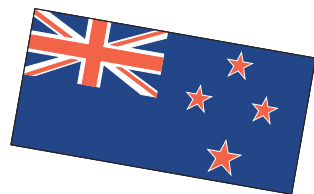




スペイン出身のエリ



NZ出身のロザ



ジェスチャーでコミュニケーション

市民活動支援センター 会議室 6.5

一宮市の国際交流員ロザンナさん（ニュージーランド）と、清須市の国際交流員エリザベスさん（スペイン）の二人により、自国のジェスチャーを紹介しながらコミュニケーション力をアップするための「エリとロザのコミュニケーションサロン」が催されました。

まず最初にお国紹介。エリザベスさんからスライドを使って、スペインは日本から約一万キロ離れた国で、エリザベスさんの出身地バルセロナは港町、テラス式のレストランや喫茶店が多いことなどが紹介されました。

ロザンナさんから、ニュージーランドの人口は450万人。原住民のマオリと主に英国移民のヨーロッパ人で構成され、成田空港から12時間で行け、時差が3時間くらいなど紹介されました。



みなさん。これまでにジェスチャーを使ったことがある人は？との質問に全員が手を挙げました。私たちが会話をする際に、会話の中で無意識にジェスチャーを用いていますが、その意味などを考えたことがあるでしょうか。そんな問いかけで今日の「コミュニケーションサロン」が始まりました。

ジェスチャーは、多くの国で同じ意味を持つ場合と、まったく異なった意味の場合があるそうです。たとえば、私たちが日常普通に使っている「こっち、こっち」と手招きする動作は、国によっては「あっちへ行け！」とまったく逆の意味を示すことになることもあるそうです。これは危ないですね。まったく逆の意味として取られると気まづくなったり、怒ったりされると穏やかではありません。私たちが気を付けなければいけません。こうなると、今日のサロンを真剣に学んでゆく必要がありそうです。

参加者は4人のグループで、資料の8枚の写真のジェスチャーについて意味を推測してみました。



今日の参加者は一宮市内は元より近隣の町からも参加があったり、おとなりの会場で開かれていた“国際交流ウエルカムひろば”からの飛び入り参加の方がおられたりで、今日のテーマは皆さんの興味があって関心度が高いテーマのようです。ジェスチャーとは身振り手振りでことばの意味を強調したり、ことばの代わりをします。自分の気持ちや態度を表したりするときにも用いるコミュニケーションの大事な方法のひとつなのです。と、講師の先生から説明されました。



左の写真をご覧になってこれはどういう意味だと思えますか？推測するのが面白そうで、あちこちから笑いが聞こえてきました。決して鼻水が出て止まらないではありません。実は、お金が無くて鼻水が出てもハンカチを買うお金もありません。というジェスチャーで、正解は「お金がない」という意味だそうです。今日は、これら8種類をたのしく学びました。

受講者より、「今日学んだジェスチャーがヨーロッパで通じるのでしょうか？」と質問があり、講師から「通じない国もあります」とのことでした。海外旅行の際にはあらかじめ調べておくほうがよいとのことで、奥が深そうですね。

なお、第一日曜日午後、市民活動支援センターで「国際交流ウエルカムひろば」が開催されています。ここでジェスチャーや、海外のいろいろな情報が得られるかも知れません。お気軽に寄られてみてはいかがでしょうか。詳しくはiiaまでお問い合わせください。（ドリアン）

外国人児童生徒 日本語指導者養成講座

木曾川庁舎 3.8、3.15

愛知県国際交流協会と一宮市国際交流協会の共催で外国人児童生徒日本語指導者養成講座が開催されました。

かつて教師をされていた方、定年退職された方、子育てが一段落された方、外国人児童教育のボランティア活動に興味がある方など、約30名の大勢の人たちが参加されました。

愛知県多文化共生推進室の神谷室長補佐から「愛知県の多文化共生の現状」、日本語ひろばジュニア代表の加藤玲子さんから「一宮市の外国人児童・生徒の現状と課題」について、話をさせていただきました。

グループ・ワークショップでは、「ボランティア教室とは」、「日本語を教える際のアイデアや工夫」をテーマに話し合った内容を代表者が発表されました。

「教室に来てくれてありがとう、の気持ちをも



って笑顔で接する場所です」、とか「子どもとのコミュニケーションから信頼関係をつくること」、また「家庭、学校、ボランティアなどの機関の連携が大切ですよ」などなど、落ち着いた話し方での発表でした。

受講された皆さんの参加で、一宮市の外国人児童の日本語教育ボランティアの輪が広がってほしいものです。
(akeharu)

国際理解教育ファシリテーター養成講座 グローバル社会にはばたく子どもを育てたい!!

本庁舎会議室 5.17

これからの時代「考え、行動する」子どもたちを育みたいと思い、現在市内の小中学校に名古屋の団体（あいち国際理解教育ステーション）からファシリテーターを派遣して、海外のことなどを子どもたちに伝えています。

しかももっと身近に、たくさんのファシリテーターを育成し、小中学校へのお手伝いや子育てに役立ててほしいと思い、この講座が開催されました。5月17日が初回で、4回のコースです。

まず自分のニックネームを決め、皆が打ち解けて話しやすい雰囲気を作ります。受講生自身が、国際理解教育、ワークショップ、ファシリテーターとは何かを考え、人の話を聞いて人から話を引き出し

ていくことの大切さを知りました。気が付くと講師の方々の話に取り込まれていました。

このあと、5月31日、6月14日、6月28日の3回です。
(みかん)





おとなりさん



とっても明るい、ポーランド出身のPaulina（パウリーナ、愛称ポーラ）・平松さんを紹介します。

パウリーナさんは、一宮出身の平松久典さんと結婚して、2014年9月に日本にやってきました。現在は、

織物工場だった立派なのこぎり屋根の建物がある家に住んでいます。ご主人と二人で、こののこぎり屋根の建物を何か有効活用できないかと考えているところです。

パウリーナさんの故郷はポーランドのRabkaという、広い面積に人口約2万人が住む、山々に囲まれた緑豊かな静かな町で、1年のうち5か月間は雪が降ることもあるという寒いところだそうです。初めて見た一宮は、昔ながらの日本的な家屋が少なく、ごちゃごちゃした感じであり美しくないという印象だったとか。でも住んでみたら、人々

が温かく、どこへ行っても知った人が声をかけてくれるgoodコミュニケーションの街とわかり、とても気に入っているそうです。

日本の食事は納豆をはじめ、なんでも食べられます。ふだんの食事はたいていご主人がお料理を作りますが、パウリーナさんがポーランドの料理を作るときもあります。

よく作るのはポテトパンケーキ。ポーランド語でplacki ziemniaczane（プラツキ ジェムニアチャネ）といって、すりおろしたじゃがいも、玉ねぎに、塩&胡椒で味付けし、小麦粉を混ぜて焼いたものです。またPierogi（ピエロギ）という、餃子のようなポーランドの伝統料理も作ります。これは、小麦粉と水を混ぜてこねた生地を伸ばしてコップなどで丸くくり抜き、中に肉やチーズを挟んで二つ折にしたもので、ご主人のご両親などみんなと一緒に食べるので、いつもたくさん作るのだそうです。

パウリーナさんは、現在、市内のあちこちで英会話を教えています。まだあまり日本語は上手ではありませんが、市内を自転車に乗って走り回っているの、見かけたら「ポーラ！」と声をかけてくださいね。（日野）

ia イベント information

iaは平成3年に設立し、今年で25周年を迎えました！
25周年記念事業として、2つの大きなイベントを開催します。
ぜひ遊びにきてください！

七夕まつり グローバル商店街

日時：7月30日（土）、31日（日）
午前11時～午後7時頃
会場：夢織り広場（一宮市役所本庁舎西隣）
内容：世界のさまざまな文化を紹介するブースが並びます

*31日（日）午後3時から、世界各国の方々が本町商店街に集まり、民族衣装や浴衣を着て「グローバルパレード」を開催します。ぜひご覧ください。

世界をあそぼう！ フレンドシップフェスティバル2016

日時：10月1日（土）、2日（日）
午前10時30分～午後5時
会場：イオンモール木曽川 ノースコート
内容：世界のステージ、クラフト体験、民族衣装の試着体験など

*協会事業を支える国際交流基金への寄付を募集しています。
詳しくは国際交流協会事務局までお問い合わせください。

地球あっちこっち

Corazón abierto ~心を開いて~

秦野 吾朗

メキシコに半年間、インターンとして障害者施設にて働かせていただきました。現在、大学3年生で将来は義足や義手、介護ロボットなどを作りたく、ハンディのある方たちとの経験をするべく行きました。仕事内容はハンディのある子どもたちのためにものを作る、といった内容です。車いすの座席を作ったり、手首・膝を固定するカバーを作ったり。今回はこの半年間で思ったこと、得たことを書こうと思います。



今回、非常に大切だと感じたことが一つあります。それは、「通じ合う」ことです。この施設で勤務している人の中にも障害を持ちながら

働いている人がたくさんいます。その中でいつも一緒に作業しているMiguelという男性がいますが、彼は耳が聞こえません。ですから、当初はMiguelと会話するときは手話ができる人を仲介しないと会話できませんでした。私は、それに対して非常に嫌な感覚を覚えました。仲介を通して話がかたくなに進まないことや、Miguel本人に話している気がしないこと、そして本当に私たちは通じ合っているのか？ということに対して。ですから、私は手話を学びはじめ、ある程度覚えました。まずはA~Zを一つ一つ覚え、それからいつも使うGracias（ありがと

う）De nada（どういたしまして）¿Cómo está?（元気?）などの言葉を少しずつ覚えていきます。するとどうでしょう！Miguelと何の障壁もなく話せるではありませんか。ものすごく嬉しかったです。今では仲介人は全く必要ありません。いかに自分の意志を伝え、相手の気持ちを受け取ることが大切であることを知りました。私たち健常者は何不自由なく話し合えます。口で喧嘩もできれば、人を喜ばせたり、悲しませたり。そんな自分にとって普通なことが、普通でない人たちと分かり合える今、私は非常に喜びを感じています。子どもたちも同じです。「あーあー」「うーうー」しか言えない子、暴れる子、泣きわめく子。最初はそんな彼らの言動にわたわたしていました。彼らのことをまだ受け止めることができなかつたんだと思います。それは自分の心が閉じたままであったからです。日本の友だちで、障害児と交流がある人が私にこう言いました。「そのうち子どもたちが愛しく思えてくるよ。」と。それから少しずつ慣れていき、子どもたちを見る余裕や、子どもたちと話す余裕が出てきました。やはり、自分の心が開いてないと、相手に心を開いてもらうことはできない。そう思い、さらに話しかけるようにしました。すると、本当に彼ら自身や彼らの言動が愛おしく思えるようになりました。「頑張って何かを伝えようとしてくれる。こっちも頑張って聞き入れなきゃ。」彼らのことを受け入れられる大きな心を得た気がします。



編集後記

タイ駐在経験のある友達の案内で、タイのファヒンとバンコクに行きました。交通手段に、トゥクトゥク（6人掛けのオート三輪）や、BTS（Bangkok Mass transit system）や、チャオプラヤ川を航行する水上定期船を使い、タイの人が日常使っている乗り物を利用してきました。街の中は大渋滞するのですが、これらの乗り物を使うと渋滞を避けいずれもお値打ちです。タイに行ってこれらを使うと、時短旅行が楽しめます。 みかん

発行 一宮市国際交流協会（〒491-8501 一宮市本町2-5-6 一宮市生涯学習課内）

ご意見・ご感想お待ちしております【TEL:0586-85-7076 E-mail:kokusai@city.ichinomiya.lg.jp】

当協会に関する情報はウェブサイト・Facebookページもご覧ください

【WEB:<http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/iia/> Facebook:<https://www.facebook.com/iia138>】

*この「かけはし」は、協会ボランティアにより取材・編集されています。

みなさんも国際交流協会親善ボランティアに参加しませんか？お気軽にお問い合わせください。